

回想 — 北海道護国神社慰霊大祭 —

土田 良吉

(一) 慰霊大祭式典

去る、令和元年六月四、五、六日にかけて、旭川市では恒例の北海道護国神社慰霊大祭が行なわれた。正に、御創祀百十四年・終戦七十四年祭でしよう！

残念ながら高齢の私は北海道中標津町なかしづつから神奈川県に転居して以来、参列を欠いていましたが、令和に入って初の大祭であり、意義深いものを強く感じて、四年前の平成二十七年のこの日、中標津遺族会の皆さんと参詣に加わった時の感慨を綴ってみます。その日は雨模様と異例の寒さで大変な一日でしたが、御創紀百年祭の記念行事もあって、改装を終え立派になった新社殿の境内には、全道各市町村からの遺族団体などで三、六〇〇人近い参拝者でした。

地下二百メートルから吸い上げられた清らかな水で「手水の清め」を済ませ社殿に一番近い指定席に就き、傍に中標津遺族会の団旗を建ておわると揃って社殿に進み深々と礼拝。記念スナップに収まりました。開会までの三十分ほどの間、大雪山降ろしの

寒風に曝され、震えていると、事務局の山田氏が配ってくれた温かいポトルの熱で寒さを凌ぐと言った笑えない一齣もありました。

境内では神社の由緒、あまたの英霊の功労顕彰、神社に纏わる逸話などが次々と放送され、大祭の雰囲気はいやが上にも盛り上がりを見せました。

国のため命を捨てしものふの

霊(たま)は鏡にいま映るらむ 御製

「皆さまお静かに…」と、開会の声で一斉に黙祷を奉げる。「御霊よ、とこしえに安らかなれ」と、次いで厳かな奏樂が奏でられ静々と式典が進行する。

社殿では宮司が御扉を開き「靖国の神の歌」を奉唱、宮司の祝辞奏上。声が拡声器から境内に木霊しました。続いて天皇陛下の幣帛料・各祭祀料を献上……。境内では参列者コーナー毎に御祓いが行われ、その間に宮司・関係者・各地区代表など百名近い方々の玉串奉奠たまぐしが続きます。長い時間でした。

アトラクションに鎮魂の浦安の舞、舞樂納會利、御神楽太鼓と続き、中でも、遠路ドイツから好意参列したブラスカペレ・ベルンハルトの奉納演奏で「美しきブラハ」「リコッツマーチ」の他に、記

念にと、もう一曲が御霊に奉げられ、大祭に相応しく盛り上がりました。次の一句を胸に閉会となりました。

靖国の宮に御霊は鎮まれど

おりおり帰れ母の夢路に

わが家では父の末弟の末司叔父が昭和八年四月、函館重砲部隊に入営、日支事変以来、戦場にいました。昭和二十年五月、宗谷海峡で海没、無念の戦死を遂げ、ここに祀られています。

不憫でならず、末尾に叔父が乗船の輸送船が米潜水艦の攻撃を受けた時の知られざる真相を載せ鎮魂の証しとしました。

(二) 神社の由緒・沿革

改めて神社の由緒沿革を調べてみました。

鎮座の在所は旭川市花咲町一丁目で面積は広く、16,651㎡を有します。

祭神は戊辰の役、西南の役に次いで日清・日露の戦争の戦没者5000柱、開拓に殉じた屯田兵、北海道・樺太関係の国事殉難者など、総数63、15

4柱(平成二十六年現在)の英霊が祀られておりません。

中でも第二次世界大戦中だけでも極北のアッツ島で玉砕した北鎮の将兵、或いは灼熱の大陸曠野に、南海の孤島に、洋上に、大空に勇躍征途に上り沖繩の玉砕に至るまで実に55,000柱の尊い命を奉げた英霊が永遠にこの社に鎮まり給うて居るのです。神社は創祀以来百十四年の間、幾多の変遷がありました。

明治三十五年、時の旧第七師団長大迫尚敏の主催のもと、練兵場の中に小祀を建設し、北海道の国事殉難者並に開拓に殉じた屯田兵を祀り同年の五月五〜六日の両日にかけて第一回の招魂祭を行ない、この年を神社の年と決めました。

明治四十三年五月、現在地において新社殿の落成式に続き例大祭を執行。

大正五年に、それまで師団招魂社であったものを、北海道招魂場と改めた。

大正十一年七月十五日、昭和天皇が摂政宮として御使により代拝された。

昭和十年北海道招魂社と称し鎮座祭を執行。昭和十四年四月一日、政令の変更で内務省令によ

って、指定護国神社となり北海道護国神社と改称された。社頭の整備を進め、これで全道の英霊の総祀社として名実ともに兼備するに至った。

終戦を経て、連合国軍総司令部（GHQ）による「国家神道・神社神道に対する政府の保証、支援、保全、監督に関する件」、いわゆる神道指令によって北海道護国神社はもとより全国の護国神社が存亡の危機にさらされた。

連合国側が言うには、護国神社は国民を欺き、侵略戦争に誘導するために意図された軍国主義的宣伝に利用された疑いが濃厚とのことであった。GHQは護国神社を監視対象とし既存の神社は齊しく宗教法人へ移行することになり神社は、政府・自治体からの補助を全く受けられなくなった。社号を単に「北海道神社」と称する時代があったが、講和条約の運びとなった昭和二十六年に旧名の「北海道護国神社」と改められた。

昭和四十年、五年の歳月を費やし本殿を大造営、総流れ造り丹碧の塗装を施し立派な社殿が出来上がった。

昭和四十三年六月、昭和天皇・皇后が共に親拝・

参拝され、同年十二月二十九日には、それまで別に北鎮神社としてあったものを北鎮安全神社として護国神社内に遷座合祀し、同日遷座祭を執行する。

昭和四十五年八月、靖国神社の宮司筑波藤麿氏が参拝している。

平成二十六年五月三十一日、五年の歳月をかけ今日の新社殿が完成した。毎年六月五・六日の例大祭は今や全国の一大祭典として盛大を謳われています。また毎日午前十時三十分から英霊の慰霊顕彰のため命日祭を齋行しており遺族、英霊に縁のある人の参列ができます。

年間祭事として元旦祭、節分祭、紀元節祭、旧八十九聯隊慰霊祭、北鎮安全神社祭、一木隊慰霊祭、明治節祭、新嘗祭、天長節祭、大祓祭、除夜祭などが執り行われます。以上は資料からの転記。

(三) 感 銘

慰霊祭護国神社の砂利の音

御霊みたまの声して身はひきしまる

大祭から帰って間もなく、感動が醒めず神社宛て

に次のようなメールを送りました。

『立派になった厳かな社殿に叔父の末司が祀られております。叔父は太平洋戦争の終戦二ヶ月前の丁度今頃のこと、輸送船で転進中、旧樺太愛朗岬沖の海上で米潜水艦の魚雷攻撃を受けて船は轟沈、無念にも戦死しました。昭和二十年五月二十九日午後八時五十八分と聞いています。旧陸軍函館重砲聯隊の准尉でした。この度六月五日の大祭礼に参列し社前を進むと凜々しい叔父が良く来てくれたと言っているようで感慨無量、胸が引締まる思いが尽きませんでした。鎮魂祭の感動は生涯消える事はありません。亡き叔父の喜ぶ笑顔が臉に浮かびます』

折り返し懇ろな返信が届きました。

『土田良吉様こんにちは、メールを送って頂き有り難うございました。先日の慰霊大祭はとても気温が低く、寒い中を遠くから足を運んで下さり、そしてご参拝いただき誠に有り難うございました。立派になったとお褒めいただきました御社殿は五年間の歳月をかけ、皆様のご尽力によって昨年のお平成二十六年五月三十一日に完成させることが出来ました。我々神主は、今後とも御英霊たちをお

祀りしている北海道護国神社を永く御護りしていきます。土田様もまだまだお元気かと思われませんが、お身体には充分に気をつけて大事にしてください。そして簡単にお越しになれる距離ではないと思いますが、是非また御来社いただき、御参拝して下さいを心よりお待ち申しあげます。

―護国神社 茂手木 亨―

と、心を温めておるところです。

道産子の自分は大戦中、七師団に入営することが当然だと心に決めていたのに、最後の徴兵組となり、それも近代戦は航空機の戦に遷り、鈴鹿の航空師団に入営しました。終戦の五ヶ月前でした。2〜3年早くこの世に生を受けていたら、まさしく七師団に入り最も犠牲の多い年齢層として奮戦したに違いありません。運命とは判らないもの、軍隊は運隊と言われる所以でしょうか。

七師団は熊部隊と言われ勇猛を馳せました。中でも境内に建立されている一木支隊の忠魂碑の前に立つと、灼熱のガダルカナル島で玉砕壊滅した無惨な勇士の姿が目に見え、涙が止まりません。

アッツ島、サイパン、沖縄など玉砕をやむなくさ

れた激戦地には必ず熊部隊の名があり、その犠牲は計り知れませんが、「死は鴻毛よりも軽し」とばかり、勇敢に闘ったものであります。英霊の「男子の本懐…」の精神は我々の心を打ちます。神社では次ぎのように訴えております。

「戦後、国の補助を絶たれてから、早半世紀以上が過ぎ、遺族の力添えで困難を乗り越えて来たものの、遺族の高齢化が進む中、英霊の遺徳が忘れ去られつつあります。行く末の英霊に対し、慰霊の祭事を絶やさないため代祭祓料奉納制度を設けた。一人でも多くの制度への登録を切望している」と。

追記

海没戦死した叔父のこと

終戦後まもない昭和20年9月ころでした。重砲部隊で叔父の戦友だったKさんが突然見えて、次のような話をされ、一縷の望みも消えて父母と悲しみに堕ちたのを思い出しています。

「我々は、終戦2カ月ほど前の昭和20年5月29日、3隻の輸送船隊で千島の占守島から小樽に転進中のことです。中央2隻目の船には千名近い将兵が

乗っていて、私は後尾の3隻目でした。宗谷海峡に入ったところ、夜半の暗闇の中、2隻目に敵の魚雷が命中、瞬く間に轟沈、海底に吞まれてしまいました。これに土田准尉殿が乗っていたのです。大変親しくして貰ったのに、気の毒でなりません」と。

それ以来、流氷融けて間もない冷たい海底に沈んだ叔父の無念さが偲ばれ心から離れることはなかった。70年以上も経った昨年のこと、友人に宗谷海峡におきたこの事を話したところ、ネット検索に巧みな彼から「真相が分かった」と、関連資料を届けてくれた。

それはアメリカ海軍の記録で、以前にKさんから聞いた話を裏付けるには十分過ぎた。攻撃に遭ったアメリカの潜水艦とは「要点の抜粋」を纏めました。艦名はスターレット：カスピ海に生息する小型チヨウザメに因み命名された。

就役は1944年3月4日。全長95m。全幅8・3m。水上排水量1525t、水中2424t。最大速度水上37km、水中16km。航続距離2万km。巡航期間・時速4キロメートルで潜行48時間、哨戒活動75日間。乗員・士官6名、兵員60名。兵装4インチ砲1、機関砲など9基、21インチ魚

雷発射管10門。

第一の哨戒

1944年7月4日最初の哨戒で小笠原諸島方面に向かった。7月23日に漁船を雷撃に続く砲撃で破壊した。8月4日特設監視艇宮城丸(248t)全勝丸(99t)を撃沈。8月8日父島近海で、特設駆潜艇第六玉丸(275トン)を撃沈した。米空母艦載機部隊によつて沈められた日本船団の生存者達を捕虜として連行した。53日間の行動を終えミッドウエー島に帰投した。

第二の哨戒

日本近海に向かった。1944年10月9日、夕刻に日本漁船を撃沈したあと、沖繩沖で6名の撃沈された友軍のパイロットを救助した。敵が台湾沖航空戦の誤報に釣られて出撃した3隻の巡洋艦とそれを護衛する6隻の駆逐艦の艦隊に攻撃を試みたが失敗した。

10月25日、小沢中将率いる機動部隊への補給部隊に対し4本の魚雷を発射したが最初の攻撃は失敗。2度目の攻撃で魚雷6本を発射。その内1本は別の目標に命中したようである。3本はタンカー仁栄丸(日東汽船10,241t)に命中沈没した。その

後、病院船を発見したが見逃した。魚雷を命中させて航行不能に陥らせていたタンカーたかね丸(日本海運10,012t)を発見、補給部隊の1隻でこれに対し、魚雷6本を発射。4本が命中。撃沈した。特別監視艇第22号との交戦で4インチ砲弾の全てを使い果たした。

第三の哨戒

日本近海に向かった。硫黄島戦の援護で関東地方を空襲する第5艦隊に対する救助配備任務に就いた。従来同様、特設監視艇を蹴散らす作戦に従事した。3月1日、立山丸(西日本汽船1148t)撃沈。4月4日、66日間の行動を終えてミッドウエー島に帰投した。

第四の哨戒活動

1945年4月29日、四回目の哨戒で千島列島およびオホーツク海方面に向かった。この哨戒においては、特にウラジオストク等に向かうソ連船に注意が払われ、ソ連船か日本船かの識別に用心深くならなければならなかった。厳格な識別が出来ないときには見逃さざるを得なかった。おまけに日本船が攻撃を逃れるべくソ連船に偽装しているという疑念も抱かせた。厳格な識別の上で次の2隻の敵船を

屠ることができた。

1945年5月29日の午後遅く、スターレットは3隻の護衛艦がついた大小の日本貨物船を発見、16時41分、船団に接近を試みたが、船団がコースを変えたので攻撃できなかった。17時20分ごろに一旦接近が途切れたが、浮上して探索した結果、18時22分に見張りが船の煙を発見。夜間の浮上攻撃を行なうことに決め、所定の位置について。樺太中知床岬北東海域で各貨物船に対して3本ずつの魚嶺を発射。2分後日本護衛艦の一隻が向かってくるのが見えたが、すぐに去って行った。その2分後にもう一度2本の魚雷を発射し、程なくして20秒後に4つの爆発を確認。日本護衛艦は爆雷攻撃を開始した。3分後、目標は船尾から沈んでいった。

22時11分追撃して来る護衛艦の艦首に対し魚雷を4本発射。まだ浮んでいいる貨物船に対して更に攻撃を行なうべく用心深く接近していった。目標は船尾が煙に覆われて航行不能になっていた。この時2隻の護衛艦が爆雷攻撃を行なって、それはまるで周囲に水を撒き散らしたかのようだった。護衛艦の1隻がスターレットと目標の間に割って入り、これに向かつて3本の魚雷を発射。なおも追いつけてく

るので艦首に向けて魚雷4本を発射したがスターレットはその場を逃げることは出来ず、その後も砲戦が交わされたが、巧みに操艦して何とか逃げ切る事ができた。

スターレットがこの戦場で撃沈した目標は、呉竹丸（日本郵船1924t）天領丸（辰馬汽船2193t）だった。6月10日、42日間の行動を終えてミッドウエー島に帰島した。――後略――

昭和20年5月29日、3隻の輸送船団が小樽に向け占守島片岡湾を出港した。叔父の乗船「天領丸」は中央の2隻目で、防空23大隊の将兵947名を乗せ樺太・東方洋上を航行中、樺太・愛朗岬沖で不運にも米潜水艦スターレットに発見され、20時55分頃、魚雷を4番艙後部にうけ瞬く間に船尾から沈没した。

船砲隊26名、将兵773名、船員57名。計8百余名が海没戦死。多くの英霊の無念さを偲び鎮魂の思いで真相に迫ったが「惨い！」の一語に尽きる。

幸いにも、亡き叔父の難を免れた戦友が涙ながらに語って呉れた修羅場の証言に感謝しつつ筆を擱きます！